

大島町復興町民会議 防災まちづくり分科会報告（第1回～6回）

1. 開催概要

■毎週水曜日 18:00 開催 総委員数 12 人

	開催日時	検討事項	資料	参加者
第1回	平成26年 5月21日（水） 18時～20時00分	① 分科会の進め方について ② 分科会で取り組む事項について	・議事次第 ・第1回「防災まちづくり分科会」資料 ①大島町土砂災害復興基本方針 ②防災避難計画に係る住民説明会ならびに地域防災連絡会の開催 ③平成26年度大島町「防災まちづくり関係予算」主な事業の概要 ・大島町事前行動計画（タイムライン）の策定および進め方について	分科会委員 11 人 オブザーバー1名
第2回	平成26年 5月28日（水） 18時～20時00分	① 第1回分科会の主な意見を受けて ② 分科会で取り組む事項について（継続） ③ その他	・第1回防災まちづくり分科会概要 ・防災避難計画に係る住民説明会ならびに地域防災連絡会の開催 ・第1回検討のまとめ	分科会委員 11 人
第3回	平成26年 6月17日（水） 18時～20時00分	① 第2回分科会の主な意見を受けて ② 分科会で取り組む事項について（継続） ③ その他	・第2回防災まちづくり分科会概要	分科会委員 8 人
第4回	平成26年 6月20日（金） 18時～20時00分	① 第3回分科会の主な意見を受けて ② 全体会に向けたまとめについて ③ 委員からの提案事項について ④ その他	・第3回防災まちづくり分科会概要 ・第3回までの防災まちづくり分科会概要	分科会委員 9 人
第5回	平成26年 6月25日（水） 18時～20時00分	① 第4回分科会の主な意見を受けて ② 町民会議への報告について ③ その他	・第4回防災まちづくり分科会概要 ・第4回までの防災まちづくり分科会概要	分科会委員 8 人
第6回	平成26年 7月2日（水） 18時～20時00分	① 今後の分科会の予定について	・第5回防災まちづくり分科会概要	分科会委員 10 人

2. 主な意見等

	テーマ	主な意見等
第1回	分科会の進め方について等	○会長の選任について ・推薦により、山田委員（公募）が会長とすることで承認された。 ○副会長の選任について ・推薦により、阪本委員（公募）が副会長とすることで承認された。

		<p>○分科会の進め方について 次の4つの柱に沿って議論を進めていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災計画の検証 ・土木施設、ハード対策について ・住民への啓発、情報周知のあり方（体制）について ・防災教育について <p>○議論の取りまとめ時期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・検討内容を6月末までを目処に取りまとめ、復興町民会議にあげる。 ・7月目処に緊急性の高い短期的対策（計画の検証等）について、それ以降は長期的対策（防災教育等）を考える。 <p>○分科会で取り組む事項について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分科会で取り組む事項について委員の意見を付箋に書き出し取りまとめ、以下の分類となった。 ①避難所、②避難情報（発令等）、③安全な避難の方法、④被災状況、⑤砂防対策、⑥防災意識、⑦避難基準、⑧その他の災害 <p>このうち、第1回では①避難所、②避難情報（発令）について意見の確認が行われた。</p> <p>次回以降、残りの項目について引き続き検討していく。</p>
	①避難所	<p>○環境</p> <ul style="list-style-type: none"> ・快適でないと避難が必要な場合にも避難がされない可能性がある ・設備だけでなく運用も避難者の状況に合わせて行う <p>○安全性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難所の安全性が確保されていることが大前提、避難計画を確認する必要がある <p>○規模</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小規模な避難所について検討
	②避難情報	<p>○行政の役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災行政無線、ホームページ、出張所の地図や説明会などいろいろな情報提供を行い、周知徹底を図る <p>○町民の役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の命は自分で守ることが根底になければならない ・行政の役割として情報提供と周知徹底があるが町民も受け身のままではいけない ・情報を待つだけでなく、町民も身近な自然からの情報に注意することも意味がある
第2回	第1回の確認と第2回以降の進め方について	<p>○第1回の確認について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回、4本の柱を立て、そのうち1本目の柱（防災計画）について付箋に書き出しを行い8本の小項目が抽出された。 ・小項目のうち「避難情報」、「避難所」については議論を終えている。 <p>○第2回以降の進め方について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第2回は③安全な避難の方法、④被災状況、⑤砂防対策について検討する。 ・なお、4本の柱について、「防災計画の検証」には、砂防・土木施設の内容が含まれているので、4本柱のうち「土木施設・ハード対策」については1本目の柱（防災計画の検証）に含める。 ・6月末までには、1本目の柱を取りまとめることを目標とする。 <p>○次回の開催について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次回開催は、避難計画の説明会終了後の17日とする。議論が終わらなかった場合の予備日として、20日を設定する。
	③安全な避難方法	<p>○住民の意識</p> <ul style="list-style-type: none"> ・被災のあった地区とその他の地区では温度差がある。その意識の差をどう埋めていくかが課題である。 <p>○地域での共助</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の互助力が大切である。どこに自分で避難できない人がいるかを把握し、体制を作ることが安全な避難につながる。 ・地域に特性に合わせて地域ごとで自主防災組織の編成を考えていくのが現実的である。 ・安全な避難をするためには、避難する時間帯が重要になる。

		<p>○防災に係る情報の周知</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遠くても安全な道を通って避難するというのを訓練でやっておく必要がある。 ・危なくなってから逃げるのでは遅い。空振りを恐れず逃げることをやり続けると今後の災害には対応できない。
	④被災状況	<p>○道路の冠水について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上げられた被災状況は道路の冠水が主な内容だが、これに関しての要望が元町地区の住民からだされており、町地域整備課で検討されていることが事務局より報告された。 ・都と町と連携して道路の排水機能強化を検討している。
	⑤砂防対策	<p>○砂防対策について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大島の浸透性がよい地質を生かして海に流す前にいかに雨水を浸透させるかという考え方も重要ではないか。 ・斜面の浅い地下水に考慮した対策を検討してほしい。
第3回	第2回の確認と第3回以降の進め方について	<p>○第2回の確認について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・柱1「防災計画の検証」柱2「土木施設、ハード対策」で検討中の8小項目のうち「①避難所」、「②避難情報」、「③安全な避難の方法」、「④被災状況」、「⑤砂防対策」の議論を終えたことを確認した。 ・配布資料「第2回までの防災まちづくり分科会概要」（事務局作成）の内容について了承された。 <p>○第3回以降の進め方について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小項目「⑥防災意識」、「⑦避難基準」、「⑧その他災害」について検討した後、別途行われた避難計画の地区説明会について、柱4「防災教育」についての意見出しを行った。 ・27日（金）開催予定の全体会に向けて、避難計画の地区説明会への意見出しと検討のまとめを行う。 ・全体会以降は、土砂災害以外を含めた総合的な防災対策について検討する（予定）。 <p>○次回の開催について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次回開催は、6月20日（金）とする。
	⑥防災意識	<p>○住民の意識</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難計画説明会に若年者や転勤者の出席が少なかった。 ・防災意識を維持するために訓練やイベント（植林など）等、工夫が必要。 <p>○町からの発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハザードマップ等の配布物で町民の興味を引くのが必要。出張所などでスライド等を共有したり、地域の活動で個別訪問での説明があると全ての人が理解できる。 ・任意の団体が学習会を開催しているが、学習の機会が多い方が良い。 ・町としても積極的に情報発信し、防災に対する本気度を伝えていくことが重要。 <p>○自主防災組織</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災意識の向上にも自主防災組織は重要。 <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災の知識を身に付け、自分の判断で行動するという意識を分科会から発信する。
	⑦避難基準	<p>○現状への危惧</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難勧告の空振りが多くなり災害危険度が軽くみられることへの危惧。 ・避難勧告の空振りを恐れて発令を躊躇するという話があるが、空振りを恐れないためには住民自身が正しい知識を持ち納得することが必要。
	⑧その他	<p>○避難計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自主防災組織の班長は、災害種別に応じた避難方法を知っておく必要があり、班長を中心に住民へ確認しておくべき。 ・土砂災害ばかりに目が向いてはいけない。 ・災害種別に応じた避難計画を整備、活用していく必要がある。
	防災教育	<p>○生涯学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大人への教育を町がどうやってサポートし町民が答えるか。 <ul style="list-style-type: none"> →勉強会などをコンスタントに続け、参加できない人へも働きかける。 →視聴覚教材の準備。

		<p>○学校教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師への研修は町教委がリードすることで住民としての意識向上にもつながる。地域の勉強会に教員が研修として参加することも地域にとって有効。 ・防災副読本の作成、地域の伝承や昔話などを盛り込む。 ・「大島は危険で怖い。どう逃げる」だけでなく、自然と共に住む魅力も伝えることが重要。 ・フィールドワーク等で島全体を学ぶことが必要。 ・中学生は避難行動が定着していた。確実に効果が出る。 ・PTSDになっている子どももいるので配慮が必要。 ・警報発令時における学校行事等の統一した開催基準が必要。 <p>○災害現場・災害遺構</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生きた教材として島外に発信することも考えられる。 <p>○地域防災スペシャリスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域に精通した防災スペシャリストを育成し、学校教育の現場にも参画。
	避難計画説明会を受けての補足	<p>○避難所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全性の説明が必要。 ・一部の避難所のみペット受入可能というのは不公平に感じる。 ・収容人員、駐車場の問題（特に警戒を要する地域以外の人自主避難した場合）。 <p>○避難経路</p> <ul style="list-style-type: none"> ・警戒を要する地域を通過する経路がある。 <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消防団詰所の安全確保が必要。 ・観光客等の避難方法・避難場所について、観光関連事業者への周知。 ・自主防災組織について再確認する必要。
第4回	第3回の確認と全体会に向けたまとめについて	<p>○全体会に向けたまとめについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第3回分科会までにすべての柱と小項目について検討を終えたことが確認された。 ・これらの検討をまとめた資料案を会長が取りまとめ、第5回分科会で、各委員に確認を頂く。 <p>○次回の開催について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次回開催は、6月25日（水）とする。
	委員からの提案	<p>○土砂災害への人工構造物の影響について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住民の多くが人工構造物の影響を懸念しているので調査を要望したい。 ・本当に御神火スカイライン関係ないのかという意見は住民の中にあり、学会などで説明されたが、住民はすっきりしていない。 <p>○橋の流木対策について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新しく作る橋については出来るだけ流木が引っかからない構造にして欲しい。 ・単に復旧するのではなく、なるべく被害を広げない方法を考えて再建して欲しい。
	避難計画説明会について	<p>○自主防災組織の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・泉津は土砂災害に関しては自主防災組織ではない、独自の取組みを検討していて、住民みずから行動するという点で非常によい取り組みである。
	情報収集・伝達について	<p>○情報の共有について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住民から行政、さらに住民相互の情報共有が必要で、大切なことである。 <p>○情報収集伝達手段</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ツイッターやインターネットだけでなく、広く情報共有をするための方法を検討の課題としてあげるのは良いのではないか。 ・若い世代が情報をキャッチして高齢者に伝える仕組みを考える。 <p>○住民の主体的な情報収集</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住民からの情報を集めるシステムというのは非常に大事なことである。（但し、正確性を担保する仕組みの検討が必要）

		<ul style="list-style-type: none"> ・住民が避難所で情報を知ることが出来るようにして欲しい。
	避難所について	<ul style="list-style-type: none"> ○物資等の備蓄 <ul style="list-style-type: none"> ・物資の備蓄がない避難所があるため、要望していきたい。
第5回	第4回の確認と全体会に向けたまとめについて	<ul style="list-style-type: none"> ○全体会に向けたまとめについて <ul style="list-style-type: none"> ・全体会に向け、これまでの議論をまとめた報告書を作成した。 ・本日の意見を追加・修正し、会長が全体会で発表する。 ○次回の開催について <ul style="list-style-type: none"> ・次回開催は、7月2日（水）とし、今後の進め方について検討する。
	中間報告書への追加・修正について	<ul style="list-style-type: none"> ○避難所について <ul style="list-style-type: none"> ・避難所へのペット受入れについての記載に関して、「避難所へのペット受入れについて今後検討をして欲しい」と表現を修正する。 ○砂防対策について（柱2含む） <ul style="list-style-type: none"> ・御神火スカイラインの記述、「復旧は必要」の文言を削除する。 ・斜面の浅い地下水を考慮した対策への記述に、「地下水を逃がす方策を合わせて検討する」旨を追記する。 ○その他に追加したい事項について <ul style="list-style-type: none"> ・防災スペシャリストについて、外部の専門家（自衛隊OB等）を雇い入れ指導者としている例がある。
	避難について	<ul style="list-style-type: none"> ○避難所でのペットの対応 <ul style="list-style-type: none"> ・ペットを置いて避難というのでは心が落ち着かないという人もいるだろう。 ○避難訓練 <ul style="list-style-type: none"> ・元町で避難訓練をしてみると人も集まるだろうか。 ・自主防災組織が機能するためには、実際にやってみるということが必要。 ・地域特性に合わせて自主防災組織の編成とあり方を考えていくことが必要。
	土砂災害対策	<ul style="list-style-type: none"> ○雨水浸透 <ul style="list-style-type: none"> ・降った雨水を浸透させることを考えたほうが良いのではないか。 ・地下水を逃がすような仕組みを砂防と併用して欲しい。 ○三原山の土砂災害対策 <ul style="list-style-type: none"> ・崩れたところの対策が決まっていないのに御神火スカイラインを復旧するというごときに疑問がある。 ・専門家に現場を見て検討してもらいたい。
第6回	第6回の議題について	<ul style="list-style-type: none"> ○第6回の議題について <ul style="list-style-type: none"> ・今後の全体の流れがどうなっていくのか、町の説明を受け、その中で分科会としてどうしていくのか意見交換を行うこととした。 ○今後の進め方について <ul style="list-style-type: none"> ・町民会議への復興計画素案の説明を受けて、分科会からの意見についての肉付けや、素案について意見交換を行う。 ・次回は7月29日（火）を予定する。
	第3回町民会議について	<ul style="list-style-type: none"> ○町民会議の進行について <ul style="list-style-type: none"> ・全体会は回数も少ないのだから、もっと意見交換が出来る形にしてもらえるようお願いしたい。

復興町民会議 防災まちづくり分科会報告

【分科会討議の進め方】

i) 第1回分科会において、全委員が本分科会において検討したい事柄を発表し、それを以下の4本の柱としてまとめた。

第1の柱；防災計画の検証

第2の柱；土木施設・ハード対策について

第3の柱；住民への啓発、情報周知のあり方(体制)について

第4の柱；防災教育について

ii) 「第1の柱；防災計画の検証」について、住民視点からの議論を行うため、委員自らの避難行動などの経験に基づいて課題として考えることを付箋で書き出したところ以下の分類と付箋の数となった。

- ① 避難所に関して (11) ② 避難情報に関して (10) ③ 安全な避難の方法に関して (8)
 ④ 被災状況に関して (5) ⑤ 砂防対策に関して (5) ⑥ 防災意識に関して (3)
 ⑦ 避難基準に関して (3) ⑧ その他の災害に関して (2)

そこで当面、以上の事柄に関して6月末に予定されている復興町民会議全体会に向けて検討していくこととした。実際の討議の中で、上記i)の第2の柱、第3の柱については⑤、⑥などの検討の中で合わせて行ったので、残りの第4の柱「防災教育について」の検討も終了し、本報告の中に含めることができた。

【検討内容と意見・要望】

第1の柱について(枠内は付箋に書かれた意見)

<① 避難所について>(付箋の数11)

環境

はじめ避難した時、床が冷たくて困った。段ボールを敷いて、寝袋を持っていった。

寒かったため体調を崩した方がいた。→暖房のある室などを考える。

トイレや寝所、携帯の充電など避難所が「快適」でないと避難してもらえない。

- i 避難所へのペット受入については今後の課題として検討してほしい。
- ii 備蓄物資を保管するスペースを確保すべき(避難所に隣接した備蓄庫が設置されるとよい)
- iii 避難後に情報がないと不安、避難所には町が責任を持って情報伝達をしてほしい。
- iv 避難所や町の施設では、無線 LAN でインターネット接続できるようにしてほしい。

⇒避難者のニーズに合わせた環境整備、運用が必要

安全性

避難所は安全性を含めて大丈夫ですか？

波浮老人福祉会館は急傾斜地内だけで避難所としてOK？

元野増小学校校舎は土砂災害の避難所として直しているか？

避難所の建物の安全性・場所的な意味での安全性を確保したことの説明が必要である。

⇒避難所の安全性が確保されていることが大前提となる

規模

避難しようと思った時に、それが面倒にならない対応が必要だと思います。町の定める大避難所ではなく小地区（隣組的規模）で気楽に動ける場所を作っておくことが必要かと思います。

- i 収容人員、駐車場の問題(特に警戒を要する地域以外の方が自主避難した場合)等で、指定された避難所に行くことに不安を抱いている住民がいるので対応すべきである。
- ii 住民自身は、いざという時に逃げ込める頑強な建物が近所にはないかどうかを確認しておくことも必要である。

⇒避難所配置の適正化と、いざというときに逃げ込める近所の頑強な建物の確認

<② 避難情報について>(付箋の数 10)

行政の役割

岡田の○世帯、泉津の○世帯
放送で「私のところはどうなっているのかわからなかった」の声あり。

避難指示の案内が遅い。

- i 避難後に情報がないと不安、避難所には町が責任を持って情報伝達すべき(再掲)
- ii 住民からの情報を共有するシステムを検討する必要がある。
→「防災おしま・ツイッター」に情報の投稿を受け付けるなど低コストでできる方法がある。
→行政からの発信とするならば、同時に情報の正確性が担保されている必要がある。

⇒住民に伝わるように工夫し、防災無線、ホームページ、出張所の地図や説明会などいろいろな方法や場での情報提供を行い周知徹底を図る。

町民の役割

大雨注意報・警報等が防災無線で知らされた後、「さて、自分はどうしたら良いのか？」が判断できない人が多いと思います。(特に高齢者)

自分の住む場所が避難勧告や指示に該当する場所なのかを理解しておくにはどうすればいい？

- i 自分の命は自分で守ることが根底になければならない(「自助」)。
- ii 情報を待つだけでなく、町民も身近な自然からの情報に注意し、災害の兆候を感じたら行政に知らせることも必要である。(ただし大雨のさなかに沢を見に行くような危険な行動はとらない。)
- iii 観光客等の避難について、観光関連事業者への周知が必要

⇒行政の役割として情報提供と周知徹底があるが町民も受け身のままではいけない

<③ 安全な避難方法について>(付箋の数8)

避難経路

避難所までの経路が街灯もなく暗い。

避難経路が2kmで遠すぎる

- i 元町小清水や丸塚地区のように危険性が指摘されている沢を越えて(橋を渡って)避難所へ向かわなければならない地区があるので、対応が必要である。

⇒避難経路の安全性確保が必要

住民の意識

避難について災害時に行動できる状況にあるのかを確認できているか？

- i 被災のあった地区とその他の地区では温度差があり、その意識の差をどう埋めていくか

地域での共助

足の確保をする
住民組織をしっかり再構築する
<住民の意識>

水害・夜間の避難
車を利用する問題
利用できない人をどうする

避難する際の支援が足りないと
思います。車や人の手が必要な人
はたくさんいます。

- i 地域の互助力が大切。自分で避難することが困難な人を把握し、体制をつくる。
- ii 泉津地区の自主防災組織の活動は参考になるので広める必要があるが、特に元町と他地区ではかなりの温度差が生じているので、地区の特性に合わせて地区ごとで自主防災組織の編成と活動のあり方を考えていくのが現実的であろう。

⇒避難行動に配慮を要する人への対応の検討も含め地域の互助力・共助の意識を高めていくことが必要である。

平時からの

備えや心構え

どこが避難して安全なのか、又は避難所へ行くまでの道が大丈夫なのか本当にはわからない。結局は「自分の身は自分で守りなさい」と言われる。身体の不自由な方は避難した方が余計具合悪くなるので行かないという人もたくさんいる。息子が消防団だから息子のために無理して行く、といった話も聞きました。

- i 遠くても安全な道を通って避難するというのを訓練でしておく必要がある
- ii 危なくなってから逃げるのでは遅い。空振り恐れずに逃げることをやり続けないと今後の災害に対応できない
- iii 雨が降る前に避難するという防災の体制をきちんと確立し、住民自身もそれを正しく理解しておくことが必要である。

⇒住民の意識も含め、訓練や情報の周知を合わせて地域の特性に応じた地域での互助力・共助の意識を高めていくことが必要である。

<④ 被災状況について> (付箋の数5)

道路の冠水

元町橋で冠水してしまう。

雨が降ると町道は滝の様な状態になる。

大島高校の都道が冠水してしまう。

→排水溝の限界。

- i 冠水しやすい箇所があるが、至急改善を望む。

⇒道路の排水については、町と都と連携しなければ改善できない部分があるが、検討を行い改善に努力してほしい。

<⑤ 砂防対策について(第2の柱「土木施設・ハード対策について」含む)>(付箋の数5)

応急対策

神達の沢にかかるコンクリートの橋、火山博物館横のワイヤーネットが流路を閉塞させないか心配。

その他

防災計画として作られた人工構造物は罹災を大きくしてしまつた可能性はないのか。

噴火対策としての土木工事は自然を大きく変えてしまった。そのことによる害はなかったのか。

南部地区に砂防ダムを作る予定がもしあるならやめてもらいたい。

※ワイヤーネットは土砂や流木を受け止め、水は流す設計になっている

- i 斜面の浅い地下水を考慮した対策の検討を希望。また斜面から地下水を逃がす対策も併せて検討してほしい。
- ii 計測装置や監視カメラ設置の検討を希望
- iii 人工構造物が降雨時形成される浅層地下水の流れに与える影響について調査・説明してほしい。
※ただし、現在の科学的知見(4学会報告等)では影響は小さいとされている。また御神火スカイラインは噴火災害時の避難路として重要である。
- iv 流木が詰まりにくいような構造の橋について、至急、研究と検討を開始してほしい。「暗渠」についても対策を研究してほしい。

⇒ハード対策ですべて対応するのは不可能、ソフト対策(避難)もあわせて行う必要

⇒様々な角度から防災対策を考える

<⑥ 防災意識について(第3の柱「住民への啓発・周知のあり方」を含む)>(付箋の数3)

町民の意識

避難指示は出ても避難しない方がいた。

若い人たち中心に公報を読まない人がかなりいる現状。

- i 避難計画等住民説明会に若年者や転勤者の出席が少なかったという状況を改善したい。
- ii 防災意識を維持向上させるために訓練やイベント(植林など)等を企画・実行していくことが必要
- iii 防災に関する学習会や説明会への参加率を上げるためそれらの宣伝も工夫がほしい。

⇒防災の知識を得る、防災の意識を高めることは命を守ること

町からの発信

各地区ごとに出された防災マップで自分の家の判断をすることは難しい。もっとわかりやすい物にしてほしいと思います。(注 避難計画住民説明会以前)

- i ハザードマップ等の配布物で町民の興味を引くのが必要。出張所などでスライドや拡大したパネル地図を見られるようにしたり、地域の活動で個別訪問での説明があると全ての人が理解できる。
- ii 任意の団体が学習会を開催しているが、学習会の機会は多い方が良いし、町としても積極的に後援したりして関わって行く必要がある。
- iii 町としても防災に関して積極的に情報発信し、防災に対する本気度を伝えていくことが重要

自主防災組織

- i 防災意識の向上にも自主防災組織による平時の活動は重要

⇒町民が防災意識を高め、自分の判断で行動できるようにするためには、自主防災組織や自主的な学習会の活動とともに町からの効果的なサポートが必要

<⑦ 避難基準について>(付箋の数3)

現状への危惧

100~200mm くらいの予想雨量で毎回避難させて良いのか? みんなだんだん慣れてきて、本当にヤバイ時に避難しなくなるのでは?

勧告指示の基準の周知は?

具体的に何 mm 以上の雨量で危険性が高まっていくのか、科学的に検証してそれを周知してはどうか?

- i 避難勧告の空振りが多くなり災害危険度が軽くみられることを危惧している。
- ii 現在は暫定基準であり、砂防対策の進捗等により今後避難基準の見直しがされるが、そこに正しく対応していく必要がある。
- iii 避難勧告の空振りを恐れて発令を躊躇するという話があるが、空振りを恐れないためには住民自身が正しい知識をもち納得して行動することが必要である。

⇒町、町民双方で努力が必要

<⑧ その他災害についての主な意見>(付箋の数2)

避難計画

噴火、津波、土砂災害でそれぞれ避難の仕方(場所 etc)が違ってくる。それをどうするか。

東海、東南海他の地震に対する準備は?

- i 土砂災害ばかりに目が向いてはいけない。
- ii 災害種別に応じた避難計画を整備、活用していく必要がある。

自主防災組織

- i 自主防災組織の班長は、災害種別に応じた避難方法を知っておく必要があり、班長を中心に住民へ周知しておくべき。

⇒土砂災害以外の災害への対策も重要、自主防災組織を確認

第4の柱について

<防災教育について>(単独で4本目の柱のため付箋はなし)

生涯学習として

- i 大人への教育を町がどうやってサポートし町民がどう応えるか
 - 勉強会などをコンスタントに続け、参加できない人にも働きかける
 - 視聴覚教材の準備

⇒大人向け防災学習への参加機会の確保が必要

学校教育

- i 教員への研修は「大島の防災教育」として町教委が主体となって実施する。1年目は全教職員を対象として行い、2年目以降は赴任教職員を対象として実施する。そのことは、住民としての意識向上にもつながる。
- ii 地域の勉強会に教員が「研修」として参加することは地域にとっても有効である。
- iii 防災副読本を作成し、噴火・津波・土砂災害を網羅し、地域の伝承や昔話なども盛り込む。
- iv 「大島は危険で怖い。どう逃げる」だけでなく、自然と共に住む魅力も伝えることが重要
- v フィールドワーク等で島全体を学ぶことが必要
- vi PTSDになっている子どももいるので配慮しながら進めていくことが必要
- vii 大雨警報等発令の場合の学校の対応について(複数校にまたがる行事・大会も含めて)統一した対応の基準が必要

⇒防災教育カリキュラム、教材の充実をはかる。

災害現場・災害遺構

- i 生きた教材として島外に発信することも考えられる

⇒災害の教訓を島内外に発信していく。

地域防災スペシャリスト

- i 地域に精通した(その地域の自然の特徴や災害伝承などに詳しい)防災スペシャリストを育成し、学校教育の現場にも参画したらよいのではないか。

⇒地域の防災リーダー(スペシャリスト)の育成を推進

その他について

- i 消防団詰所の安全確保が必要
- ii 自主防災組織について、構成や班長の役割、活動内容などについて再確認が必要である。
※泉津地区では、自主防災組織の構成が「特別な警戒を要する地域」及び「その他の警戒を要する地域」に対応していないので、土砂災害対策のため別の組織を「自主的に」組織することとした。
→地域ごとに意識や取り組みに差が出ているので、先進事例を共有する機会がほしい。

No	被災	防災意識	避難基準	砂防対策	避難情報(発令等)	避難所	安全な避難の方法	その他災害
1	元町橋で冠水してしまう。	避難指示は出ても避難しない方がいた。	100~200mmくらいの予想雨量で毎回避難させて良いのか？みんなだんだん慣れてきて、本当にヤバイ時に避難しなくなるのでは？	南部地区に砂防ダムを作る予定がもしあるならやめてもらいたい。	避難すべき世帯がはっきりしていない。	避難所は安全性を含めて大丈夫ですか？	避難経路が2kmで遠すぎる避難所にベッドがなく、不便 洋式トイレがなく不便 避難勧告等の放送がわかりにくい	噴火、津波、土砂災害でそれぞれ避難の仕方(場所 etc)が違ってくる。それをどうするか。
2	崩壊した山側の泥水や道路の冠水について、ちょっとの大雨でも当り前になってしまいました。水の流れ路(流路)を考えた方が良いと思います。	若い人たち中心に公報を読まない人がかなりいる現状。	勧告指示の基準の周知は？	噴火対策としての土木工事は自然を大きく変えてしまった。そのことによる害はなかったのか。	岡田の○世帯 泉津の○世帯 放送で「私のところがどうなっているのかわからなかった」の声あり。行政から住民から必要 両者の動きが同時	間伏地区は差木地公民館に移動した(27号) 差木地公民館窮屈、差木地体育館ガラガラ	避難所までの経路が街頭もなく暗い。	東海、東南海他の地震に対するの準備は？
3	大島高校の都道が冠水してしまう。	各地区ごとに出された防災マップで自分の家の判断をすることは難しい。もっとわかりやすい物にしてほしいと思います。	具体的に何mm以上の雨量で危険性が高まってくるのか、科学的に検証してそれを周知してはどうか？	防災計画として作られた人工構造物は罹災を大きくしてしまった可能性はないのか。	昨日の雨でも大雨警報が出てしまう。住民には不安が強くなる。	はじめ避難した時、床が冷たくて困った。ダンボールを敷いて、寝袋を持っていった。	どこが避難して安全なのか、又は避難所へ行くまでの道が大丈夫なのか本当にはわからない。結局は「自分の身は自分で守りなさい」と言われる。身体の不自由な方は避難した方が余計具合悪くなるので行かないという人もたくさんいる。息子が消防団だから息子のために無理して行く、といった話も聞きました。	
4	雨が降ると町道は滝の様な状態になる。→排水溝の限界。			神達の沢にかかるコンクリートの橋、火山博物館横のワイヤーネットが流路を閉塞させないか心配。	避難と災害の起こる考え方が一致していない。→必要以上の避難を嫌う。	波浮老人福祉会館は急傾斜地内だけど避難所としてOK？	足の確保をする 住民組織をしっかりと再構築する <住民の意識>	
5	町道が整備されていない場所に住む人が、道路が悪くて避難しにくい。			もしも元町地区の防災計画が何も自然に手を加えなかった場合の考えられる被災の程度。	避難指示の案内が遅い。	避難しようと思った時に、それが面倒にならない対応が必要だと思います。町の定める大避難所ではなく小地区(隣組的規模)で気楽に動ける場所を作っておくことが必要かと思っています。	避難について災害時に行動できる状況にあるのかを確認できているか？	
6					大雨注意報・警報等が防災無線で知らされた後、「さて、自分はしたら良いのか？」が判断できない人が多いと思います。(特に年寄り)	寒かったため体調を崩した方がいた。→暖房のある室などを考える。	避難する際の支援が足りないと思います。車や人の手が必要な人はたくさんいます。	
7					4/4の放送では誰が対象かわからない。	泉津にはペットを連れていける施設があるが、他地区についてはどうなのか？ペットがいるから避難しない人もいる。	不自由な人を運ぶ方法 日常的に決めておくことが大切 ”誰々さんは誰々さんが運ぶ”	
8					住民が知る方法 どこで、どんな方法で知ることができるか 周知する 行政からの連絡を待つのでなく—	トイレや寝所、携帯の充電など避難所が「快適」でないと避難してもらえない。	水害・夜間の避難 車を利用する問題 利用できない人をどうする	
9					自分の住む場所が避難勧告や指示に該当する場所なのかを理解しておくにはどうすればいい？	大島高校の避難 ・体育館入口がすべる ・駐車場の問題		
10					避難を指示する組織が統一していないように感じた。	元野増小学校校舎は土砂災害の避難所として直しているか？		
11						避難所の設営に動員する人数が少ない。		